

『わたしの顔を、慕い求めよ！』詩篇27篇1～14節 2018.11.11 聖日礼拝説教より

『…「わたしの顔を、慕い求めよ」…主よ。あなたの御顔を私は慕い求めます。』詩篇27篇8節

ダビデは「一つのことを願った(27:4)」。それは、「神の御顔を慕い求めること(27:8)」であり、『主の家』で御顔を仰ぎ、日々の煩わしさを離れ、心静めて、ひたすら主の恵みを想うこと…。彼がそうするのには理由があった。

❶**御顔を慕い求める理由(5節)**…「悪を行う者が襲いかかり、戦いが私に向かって起こり、私を取り囲む敵、待ち伏せている者ども、私の仇、偽りの証人どもが暴言を吐き…(2-12 節)」…彼は苦しみ悩み、追い詰められた故、必死に主の御顔を仰いだ。そして何より、神が彼のその祈りに答えてくださった故に、ますます御顔を求め、神に信頼し、救いを実感して神を讃美した(⇒27: 4-5、13)。人生の全てに神が関わられ、万事を益とされることが信じられないなら、自分はずっと滅びていたと知って叫び、『待ち望め。主を。雄々しくあれ。心を強くせよ』と信仰を励ます。不安や恐れの中、主の御顔を上げ！と。嫌でも何でも御言葉が示されたら「アーメン」と従う時、主はそこに、驚くべき御業を見せてくださる！

❷**御顔を慕い求める祝福(1～6節)**…「わたしの顔を求めよ」とは、試練や悩みの中にいる者への神の招き！ダビデは、その招きにすぐに答えた「主よ、あなたの御顔を私は慕い求めます」。「神の顔」とは？例えば「神の御手」は、神の業・全能の力を表すが、「神の顔」は、業や力より、神様のご性質を表す。神は御顔をあなたに向けて恵まれる(民数記 6:24-26)。つまり「御顔を仰ぐ」とは、神に何かをしてもらうことより、そのお方の優しい慈しみの心に触れる！そして「御顔の光」に照らされる(詩篇 16:11)！御顔の光に照らされた者(詩篇 89:15)の明確な態度は、「兄弟姉妹として、互いに愛し合う姿(Iヨハネ 2:9-11、4:20-21)！

★私たちは、いつも御顔を仰ぎ、その慈しみに触れ、温かくて優しく、明るく慰めに満ちているだろうか？何より、互いに愛し合う教会になっただろうか…と問われている！今主が言われる。「わたしの顔を慕い求めよ」。それにすぐに答えたい！『主よ、私は、あなたの御顔を慕い求め、あなたの御顔の光、愛の光を人々に照らすものになりたいです！』と。